

■ 「情報」の反意語は何か？

田畑暁生 「情報の反意語は何か？：反意語から捉える情報概念の構造」日本社会情報学会『社会情報学研究』第3号,1999.

情報という「概念に対して付与されるイメージが多様であるために、話が混乱することも少なくない。」
「情報という言葉の与えるメンタルなイメージが、各人ごとに異なっている」点に問題がある。しかし「強引に（かつ一元的に）整理すると今度は「情報」という語の持つ立体性を損なう」。「根源的な問題はむしろ、何を情報と捉えるかという前提、考え方、世界観にあるのではないだろうか。」

「現実」の反意語？

1. 情報対物質

質料（しつりょう, matter）と形相（けいそう, form）／アリストテレス

質料に一定の形を与えて、一個の現実的存在者として成立させる構成原理。これを、プラトンは事物から超越する原理とし、アリストテレスは事物に内在する原理とした。

「青銅の球」では青銅が質料で球が形相

アトムとビット／ネグロポンテ

メディアとメッセージ＝物質的媒体と内容

2. 情報対オリジナル（本源）

何かの複製が情報である。

「複製可能であり、かつ、複製された後もなおもと同一の状態を保つようなものについて、その複製された内容である」（野口悠紀雄）

言語やデジタル表現の場合、オリジナルとコピーの差がない。

「シミュラークル」（ボードリヤール）

「アウラ」（ベンヤミン）

3. 情報対現実

現実 vs メディアが捉えた「疑似現実」（リップマン）

「疑似イベント pseudo-event」（ブーアスティン）

real vs virtual

4. 情報とノイズ、情報とエントロピー（情報理論における情報）

「不確実性を減らすもの」（シャノン）正確な伝達にのみ関心。

S/N比

エントロピー、情報は負のエントロピーに等しい。

熱力学と情報理論で違いがある？

両者の違いは圧倒的な量の違いである。

情報＝意味ある記号、ノイズと区別しているもの

5. データ、情報、知識、（知恵）

生な「データ」→加工→「情報」→分析・理解→「知識」→統合・連携→「知恵」

6. 情報対虚無

情報一元論（すべては情報である）

(1)完全な情報一元論：世界のすべてが情報である。

(2)人間中心の情報一元論：「五感に感ずるあらゆるものが情報」（加藤秀俊）

Q：誰もいない森の中で木が倒れたとき、そこに音はあったと言えるか。

Q：誰も直接命じていないのに、コンピュータが勝手に蓄えて処理し、人目に全く触れる可能性さえもないデジタル符号は情報と言えるか？

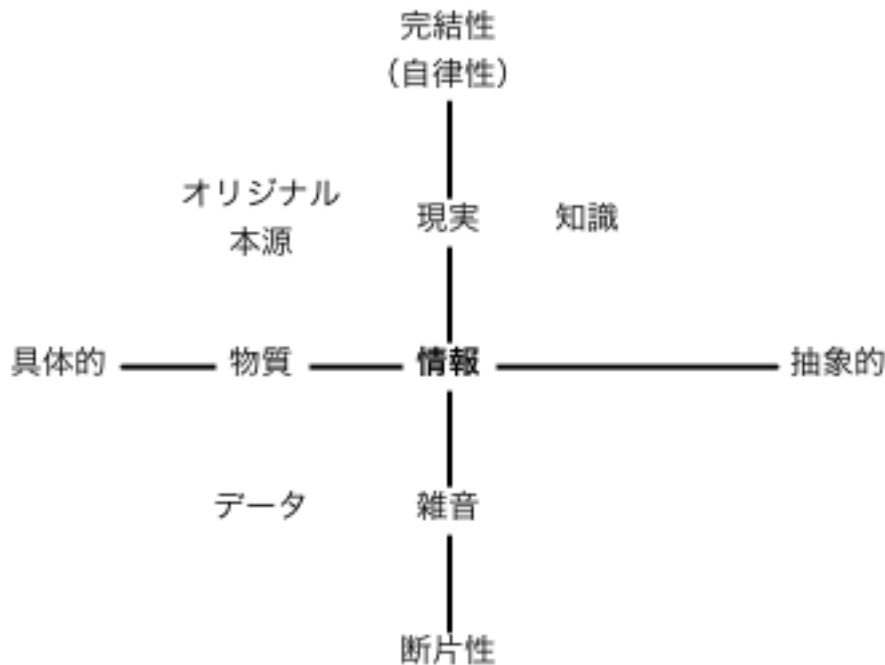
□情報の反意語の図示

原点：「情報」

横軸：抽象的か具体的か

縦軸：完結的（自律的）か断片的か

第3の軸：存在／非存在



□virtualとreal／ドゥルーズによる批判

virtual（仮想の、潜在的、潜勢的） vs actual（実際の、現実的、現勢的、現働的）

real（現実の、実在的、実在の） vs possible（可能な）

■情報と場所

これがあれを滅ぼす／ヴィクトル・ユゴー 『ノートル＝ダム・ド・パリ』

聖書がカテドラルを滅ぼす。

情報は場所に依存しない？ 情報の流動性、偏在性 vs 場所の固定性、唯一性？

■Re-Place-ing Space

Steve Harrison, Paul Dourish, Re-Place-ing Space: The Role of Place and Space in Collaborative Systems, CSCW'96, 1996, <<http://www.ics.uci.edu/~jpd/publications/place-paper.html>>

- Space is the opportunity; place is the understood reality.

- While space have up and down, left and right, places have yesterday and tomorrow, good and bad.

- Places, not spaces, frame appropriate behavior.

- Places have social meaning.

- The distinction is rather like that between a ``house" and a ``home"; a house might keep out the wind and the rain, but a home is where we live.